

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4490700038		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター彦ノ内		
所在地	津久見市大字津久見783番地		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JijiyosyoCd=4490700038-008&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JijiyosyoCd=4490700038-008&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番の1 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成27年3月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その人らしさをどうぞいつまでも」をコンセプトに生活支援を実践している</li> <li>・規則正しい生活リズムを作る様に時間により照明の明るさが変わる。</li> <li>・居室の扉を開けるとすぐにホールがあり、常にスタッフや他のお客様との関りが持てる。</li> <li>・定期的にミーティング。研修等を重ね、お客様の個別ケアを実践しています。</li> <li>・毎月食事の献立を考えて料理を提供している。(お客様と調理をする)</li> <li>・協力医療機関による往診等により健康管理を行っています。</li> </ul> <p>※お客様の心身ともに安心・安全な生活の提供に努めています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>山間の静かな環境に所在する2ユニットの施設であり、会社組織の資源の活用の様子も伺えます。理念の掲示(玄関)は、施設と利用者・家族・地域の相互連携への営みへ意思表示でもあり、施設運営の指標としての意図も見受けられます。利用者への尊厳と本人本意を念頭に、アセスメント(家族間交流より)に努め、又、身心の状況の把握・仕草や表情の気づきを支援の糧として、集団と個の生活の楽しみ・暮らしの豊かさの向上に繋げています。地域密着型サービスの視点を貴重に捉えており、行政・地域を介した地域資源の活用、連携・相互の関係構築への体制づくりへの前進的な意向・開かれた施設(ニチイ'21'の日)など、心の通い合える施設運営に取り組む姿勢が伺えます。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のケアの実践が、理念に基づいているか振り返りをしながら、より充実したケアに繋がるよう努めている。 地域に開かれてた施設とは何かを模索し追求している	理念の共有を支援の柱として、全職員間のチーム力の向上に努める姿勢が伺えます。その人らしさ・暮らしの向上に着眼する営みにおいて、個の「行動」に固定概念を付けずにその意味合いを深く捉えていける職員の資質、育成に着眼しています。	理念へ取り組み・利用者支援の探求・向上において、個の職員の意思(目標)の具体的な考察・意向、さらに、理念の実践への全職員間での協議、共有意識と支援への発展と体制づくりに期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方から紹介を受け、行事に参加できるように努めている。 日々の買物等で外出した際には、挨拶を交わすなど交流を深めている	自治会の加入もあり、地域役員(民生委員等)との繋がりを活かした取り組み(イベント参加等)・ボランティア訪問の受入れなど、管理者は地域密着サービスを提供する施設の役割りと必要性について支持しており、積極的な営みの姿勢が伺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、第3水曜に見学会を実施する。 地域の行事参加も全員ではないが、参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催している ご家族、地域住民、民生委員、市の担当者の方にも出席をしてもらっている	会議では、行政機関・民生委員・家族の出席の中で、施設の状況や利用者の近況の報告・家族の思いの伝達や地域情報等による相互間の交流と協議に努めています。地域の中で支えあえる関係づくりへの前進的な取り組みの姿勢が伺えます。	地域で暮らす施設の在り方・地域連携と支援の向上を、今後の課題と捉える管理者の意欲的な取り組みの姿勢が伺えます。趣旨や内容の職員への浸透、地域相互協力の関係づくりに期待が持たれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に相談し助言を頂いている 運営推進会議では、出席の折は、意見等を頂戴し、ホームの改善に努めている	運営推進会議を活用した交流を中心に、電話や訪問による必要事項の伝達や相談など、又、市主催の行事への参加を通じた関係づくりが行われており、相互連携に努める様子が伺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルをもとに勉強会を実施し、理解を深める	職員が講師を務める内部研修への取り組みや、職員研修受講シート(個人別)の作成(目標の提示・感想による振り返り)を通して、研修の意欲の向上と修得に取り組んでいます。「精神的な思いの抑制」への着眼・傾聴の大切さを支持していいいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等の理解を深めるために勉強会で実施する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	ホーム会議等で研修を実施する 後見人制度の利用検討については相談等はないが、発生の際は、支援できるように体制を整備している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時には読み合わせを行い、不明箇所は、分かりやすい説明に努め、インフォームドコンセントを実施する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、運営推進会議、アンケート等で要望を聴取している	会社組織の統一された支援形態の運用「顧客満足度調査」の実施など、利用者や家族の思い・意向の把握に努める姿勢が伺えます。面会や推進会議(家族会)の出席による相互間交流、利用者・家族の思いの把握と実践に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議等で各々の意見が発信できる場を設けている。また、提案内容について、全員で協議し反映できる仕組みを構築している	有意義な研修への導きの姿勢と個人記録の継続的な活用、面談(年2回)を介し、思いの把握と資質の向上(個の職員・チーム力)への取り組みの様子が伺えます。オープンな話し合いを大切に、意向や提案の伝達・実践への協議に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自に研鑽できるような機会を設け、目標を持って専門職として向上できるように研修、面接の機会を通して実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、テーマ毎の研修等の内部研修はもとより、外部で開催される研修にも積極的に受講を推進している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等に参加し、情報を共有している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、ご本人と面談を重ね、職員の認知をして頂き、入居後も安心した生活が送れるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心した生活が送れるようにコミュニケーションを図りながら、不安、課題を解決していき信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向及び入居前の生活情報等を把握し、その内容を職員間で協議し、必要な支援を提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人もの役割を担って頂き、コミュニケーションを図りながら良好な関係を構築していく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況を報告している。ご家族と共に介護している関係であることを念頭に置き、ご家族との関係構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、その時間を大切にできるように職員が近況を話したり等の支援している。	家族とのコミュニケーションを大切に、アセスメントに取り組んでおり、生活暦や馴染みの関係や場所の把握、継続的な支援への営みの様子が伺えます。外出(馴染みのマーケット等)や、電話・年賀状における繋がり・交流の援助に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が場面、時間を共有できるように、職員が関係が円滑に運べるように配慮しケアを行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、連絡を取り、相談等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるように、生活に反映できるように努めている これまで歩んでこられた人生から、多角的、多層的に把握し、ご本人らしい生活が送れるように努めている。	センター方式の書式の活用において、情報の職員間の共有を支持しており、本人本位・寄り添える暮らしの営みを大切に、ささいな言葉・表情などに留意する支援において、個の思いの把握、家族との交流と相互協同への関係づくりに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人、ご家族より生活歴等のアセスメントを実施し把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録にてご本人の生活リズムを把握する。また、職員間との申し送り等で気づき等と共有しケアの充実を図る		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向、ご家族の要望を関係する専門職と協働で検討し、介護計画に反映させる	2パターンの「日常生活支援シート」の運用において、利用者の現状(出来る事・出来ない事)の把握に至っており、職員間の共有が図られています。担当者を中心に生活の見つめ直しと全職員での周知、計画目標への実践に取り組んでいます。	個の利用者の現状と思い・家族の意向の把握を基盤に、目標の達成に繋がる援助への姿勢が伺えます。サービスの実践と目標達成への着眼において、支援経過に着目したシステムづくりに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に1日の生活の状況や健康状態が把握できるようにしている。また、職員間の情報共有し、適宜、介護計画の見直しを実施する		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に応じられるように支援に努めている 状況の変化に迅速に対応し随時見直しを図っている		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加し、ボランティアの方との交流を図る			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と24時間の連携をする 夜間帯でも往診をしてもらっている	基本的には、入所前のかかりつけ医が主治医となっています。遠方からの入所者の中には、協力医に変更される方もいますが、全員の希望と納得が得られています。往診や受診時には、事業所での利用者の状況、病状等を文書や電話で伝える仕組みがあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と24時間の連携をする 週に1度、訪問を行い、状態の変化等を共有している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの状況等を医療機関に情報提供を行い、早期の退院に向けて支援している			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居前にご家族(代理人)に重度化した場合の指針を説明し了承を得ている。 早期の段階から、主治医等を連携を深めて、支援を行う	重度化した場合のマニュアルはありますが、看取りに関する明確な方針は定められておらず、状況に応じて家族・医師と相談する形がとられています。職員教育については、意識付けや対応の仕方等今後勉強して行く計画です。	利用者にとってホームは家であり、職員も馴染みの関係が深くなっていく中で、家族同様の気持ちを持って、将来的には看取りまで考慮した支援が望まれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の講習のより、蘇生術の訓練を実施する 適宜、研修を実施し、発生時の対応等は理解を深める			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、訓練を実施する 災害時の非常食等は備蓄している	避難訓練を年2回(内1日は夜間想定)行っています。消防署、地区防災会との協力のもと、全職員が参加し、その中で避難誘導時の確認に各居室にタオルを掛けており、避難されたかが、分かる様に工夫をしています。防災機器の点検や備蓄、有事の際は、隣接する法人の事業所との協力体制もできています。	運営推進会議で近隣の方へ訓練の参加を依頼したり、緊急時の職員の連絡網の訓練等の実施とともに、計画を立て実際に訓練をした写真と反省点、課題等を記録に残し次の訓練に生かされることを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思、尊厳を尊重したケアを実践している。 職員研修の中で、個人情報保護のトレーニングを実施している	接遇研修の中で挨拶、コミュニケーション、礼儀、尊重とプライバシーの確保等を勉強しています。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、丁寧な声かけや対応をミーティングや勉強会で繰り返し確認しています。排泄や入浴時の対応については特に留意し、人格の尊重や羞恥心への配慮に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話(表情)の中から、意向、お気持ちを把握し、自己決定できる(しやすい)支援を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	プライバシー、尊厳を尊重し、日々の生活の中で、場面ごとで主役になれるような支援を行う。 また、その方らしい暮らしを日々模索している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思を尊重し、職員が支援している。 定期的に理美容のボランティアあり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割の中で、下ごしらえ等をしてもらう等、実践している	食事前のテーブル拭きや、食事の盛り付け等職員と一緒に準備をしたり、食器の片付けも体調に合わせてお手伝いをされています。昼食やおやつ作り等の食事レクを取り入れ、一緒に作る喜びを味わうとともに、おやつは職員と一緒に食べ、楽しい会話が弾み家庭的な雰囲気が伺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔の状況、咀嚼、嚥下の動作を観察し、状況の応じた食事の提供を行う。日々の摂取量は観察し、体重測定は定期に実施する。食材は、「地産地消」で地域の食材を利用に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の誘導等により支援を行う。 口腔の状況は、都度、職員が観察している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本はトイレで出来るように、日々の観察をし、時間毎の誘導・声かけ等を行う	排泄チェック表をもとに利用者個々のパターンを把握し、職員は手引き歩行で誘導やサインを察知しながら声かけし、トイレでの排泄を支援しています。排泄介助はケアプランの中にも入れ、カンファレンスで話し合い情報の共有を図っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を日々観察する。 野菜、乳製品を食事に多く取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を基本とするが、ご利用者の希望と、その日の体調等を考慮した対応を行う。	利用者の生活習慣を大切に、毎日、好きな時間に入浴できるよう希望に添う支援をしています。家庭的な浴室は毎回湯を入れ替え清潔で気持ち良い入浴に取り組み、拒否時には声かけを工夫しています。ゆず湯等季節感や色々な石鹸の香りを楽しむ支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターンを把握にし、安眠へ向けての検討を職員が行い個々で生活リズムの合った支援をする。 就寝への誘導は、画一では、なくお一人の状況に合わせた対応を行う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に服薬の内容等は把握し、服薬支援マニュアルに基づいて、入居者個々で管理をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションや生活を通して、お一人おひとりに合った役割を担って頂いている (洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、菜園の水やり等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周辺を散歩したり、年に数回、外出の計画を企画している。特に季節を感じられる企画を設定している。	近隣の散歩や買い物等の外出支援を行っています。ドライブ等の計画を立て支援に繋がっていますが、全員での外出は困難という面もあります。墓参り等、家族の協力を得て個別支援に繋がっています。	一日一度は外に出て気分転換を図ることは大切です。今後庭に花壇を造り、花や野菜を育てる楽しみを計画しています。利用者の要望には家族の協力も含め意欲や自立を保つためにも、外出計画に反映され実行されることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額については、ご家族の了承のもと、所持されている。ご本人で所持が難しい方については、事務職員が日々の買物が生じた場合は出納帳で管理し、その内容をご家族へ毎月報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により都度、利用できるようにしている。 季節の便りをご家族に送る機会を設けている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、季節毎のクリスマスツリーや飾り等を展示する。 特に照明は、太陽光と連動して、時間ごとに明るさを自動で調整している	職員の細やかな配慮により、共用空間に不快や混乱を招くような刺激はありません。 ゆっくりと寛げるように、個々の生活ペースを守り、食後、居室で昼寝をされる方、テーブルで談笑される方等がみられ、居心地よさを支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、気軽に休憩できるように椅子等を配置し、庭には家庭菜園を設け、季節を感じることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力を得ながら、自宅での生活と同様の環境になるように努めている。 また、ご家族の方が宿泊をされる際に居室内で就寝できるように簡易ベッドを準備している	馴染みの品物や、利用者の好みの物を家族が持って来られる事が多いようです。中には、居室をアパートの一室の様に考え入室したら鍵を掛ける方もいますが、プライバシーに配慮し落ち着いて暮らせる環境作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内外含め、バリアフリー(段差解消、手すり設置)になっている。 生活を送るうえで、戸惑いを感じないようにトイレ、居室に表示等をしている。		